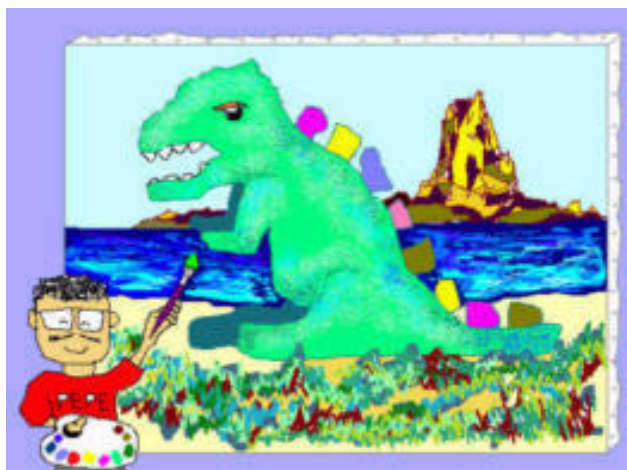


# アトリエペペマニユアル



絵をかくことは、ひとりでもできることだけど  
みんな集まって絵をかくと楽しいんじゃないかしら。  
そんなところでアトリエペペはやっています。

小さい子から大人の人まで、  
絵を通していろんなつながりができて、  
遊ぶようかいていと  
気がつくといろんな作品ができています。

それぞれの作品に個性があって、  
そんなのを眺めているだけでも楽しい教室です。  
絵の世界を自由に展開してくださいね！

〒464-0072 名古屋市千種区振甫町2-64  
TEL・FAX 052-711-4401  
アトリエペペ 中島武彦

e-mail [n-pepe@diana.dti.ne.jp](mailto:n-pepe@diana.dti.ne.jp)  
URL <http://www.diana.dti.ne.jp/n-pepe/>

アトリエって聞きますと、クラシックが流れるような静かなたたずまいで、落ち着いて絵を制作する場所。というイメージが湧いてきますが、そんな姿から大きく逸脱して、ずっこけながらもにぎやかに、明るく元気にやっている不思議なアトリエになってしまいました。

初めて見学にこられたおかあさん方は、アトリエペペの授業風景を見られて、びっくりされると思いますが、そこには整然と座って絵をかく子供達の姿があるわけでもなく、飛び回っていたり好きなことやってたり、ほとんどこれは遊んでいるんじゃないの？と見られる風景があります。「絵をかくことも遊びのひとつ」そんな観点でやっています。

アトリエペペを始めた時、やっている日は、まだ土曜日一日だけで近所の子供10人ぐらいでやっていました。みんなでお菓子買いにいったり、桜の木の下へいったり、お祭りへいったり、随分自由に動き回ってやっていました。積極的に宣伝したわけでもなく自然体でやっていたら、長い年月を経過した今、子供だけではなく大人の人にも絵をかきにくるようになりました。

忍者屋敷のような古い風情の和風の建物の2階でやっていたのが、別に数字のこだわりなんかありませんが、偶然平成9年9月9日に、今の建物になりました。とはいっても決して広すぎるとはいえない限られた空間で、お互い仲良く譲り合って楽しくやっています。

では、ペペのやってる曜日と事務的なことです。

## [アトリエペペのやっている日]

曜 日	午 前	午 後	夜
火曜日	10:30 ~ 12:30 (大人)	3:30 ~ 6:30 (子供)	6:30 ~ 10:00 (学生・大人)
木曜日		3:30 ~ 6:30 (子供)	
金曜日	10:30 ~ 12:30 (大人)	3:30 ~ 6:30 (子供)	6:30 ~ 10:00 (学生・大人)
土曜日		1:30 ~ 6:30 (子供)	6:30 ~ 10:00 (学生・大人)
様 子	主婦の人達中心に油絵を描いています。 コーヒーを飲んで、おしゃべりもしています。	子供達が、きゃあきゃあ言いながら絵を描いています。工作をやったりもします。	中学生から大人が油絵とか、好きな画材を使って絵を描いています 美大受験生の高校生の子が、デッサンをしていたりします。
備 考	にぎやかです。	ものすごくにぎやかです。	夜も、なんだかんだと、にぎやかです。

基本的に週1回のレッスンで、同じ曜日が月5週ある場合、第5週はお休みです。

火曜日都合が悪くなっちゃって金曜日に来たよとか、面白いのでしょっちゅう来るからね覚悟しておいてね、ということには自由にはしています。

上の表のうち、午後と夜の時間の切れ目はありません。暫定的に6:30で分けてありますが学校帰りに高校生が来て、子供達といっしょにやってる場合もあります。夕御飯までには子供達は帰りますので、それ以降が大人の時間だと考えてください。

## [月謝とかのことです]

子 供 (3才ぐらいから小学校6年まで)	月 額 4500円
大 人 (中学生から社会人まで)	月 額 5000円
その他	傷害保険代500円・冷房費800円・暖房費800円 (1年1回です)
子供の場合 工作をやる月があります。大体300円を目安に材料を集めてやっています。 その都度、月謝袋の中のお手紙でお知らせします。	

アトリエペペに入る時の入会金はありません。その代わりに保険代だけ500円もらっています。この保険は、例えばペペに通って来たり帰ったりする道で起こったこと、工作やってケガしちゃったことなど、病院に行った場合に適用されます。過去ほとんど使ったことはありませんが、念のためみんな入っています。

入る時に必要な金額は、月謝 + 保険代 (500円) + 冷房代 (例えば夏季期間ならば) + 工作代 (例えばその月に工作をやるならば) ということになります。その月に応じて計算してお伝えしますので宜しくお願い致します。

いつもペペ先生が座っている椅子のそばの柱に、「かいじゅうのたまごをかいてねのえ」とか「せかいちきれいなはなをかいてねのえ」とか、全部ひらがなを使って絵の問題が4枚ほど貼ってあります。ひらがなが読めない年齢の子には読んであげますが、その問題を自分なりに解釈して自由に表現していく。といった授業進行です。やり方、かき方はその子の主体性にまかせています。

絵をかいていて、大人でもそうですが、集中力がきれたりいや気がさしたりすることがあります。そんな時はペペの場合、無理やり完成させることを美德とせず、かきかけの絵を次週に続きにします。あわてて雑になるよりは、ゆっくりでもいいからすごい絵かいてね。というところを見ている。

絵が完成した場合そのままペペにおいていってください。ペペ先生は一週間の間にひとりずつの絵の裏に、やはりへたくそな文章で、その絵を見て思うことなどコメントを書いて返却します。ついでに、その絵が「すごい！」と思えば「ほしまる」つきのコメント。「これは、すご過ぎる！」と思えば「たいようまるつきのコメントとチャンピオンの認定証」をさしあげます。たいようまるは、めったにでませんのでがんばってください。

こんな感じでアトリエペペは進行していきます。30分絵をかいて1時間遊んでいる子もいますが、子供達の楽しそうな顔をみると、それもいいか！と思うこの頃です。

子供達の絵を見ると、同じ年齢でも成長の速い子・遅い子いますし、男性であること・女性であることでもはっきりとした違いがありますし、絵が好きだから習いにきた・絵が苦手だから習いにきたで異なりますし、比べることなくその子独自の持ち味を見えています。子供の体が大きくなるまでに長い年月を要するように、絵の成長もすぐには結果がでない大変気の長いものなので、できるだけおおらかに気長に、ゆっくりと相手をしています。

現在アトリエペペには、下は3歳ぐらいから上は60歳過ぎまでの人が通っています。それぞれの年代と絵について、感じる事をまとめてみます。

### [年齢とアトリエペペの関わり方]

年 齢	絵 の 内 容 と 関 わ り 方	指 導 の ポ イ ン ト
3歳前後 から 幼稚園の年中 ぐらい	クレパスのぐるぐるした形から始まります。大人が見ると何の形か解りませんが、自分でも意味が解らないものから、だんだん意味のあるものに変化していきます。絵の具をぬってもグチャグチャになりますが、絵の感覚が芽生えてくるところを大切にしていきます。	男の子より女の子の方が早く形になります。  あせらぬように毎回似たような絵でも繰り返してかくのをほめてあげます。
幼稚園の年長 ぐらい	自分なりのかき方が出てきます。女の子はチューリップかいた、ちょうちょかいたと具体的な形を展開します。男の子はロボットかいて怪獣が出てきて戦って爆発した、というように同時に時間の経過まで画面に入れてしまう事が多いので、母親にとって理解しにくい絵になることが多いと思います。	絵の具を混ぜ合わせることに興味をもちます。  混ぜすぎてすごい色の絵もでてきますが、好奇心の延長だと思ってどんどんやらせませす。

<p>小学校 1年生 ぐらい</p>	<p>1年生は幼稚園と違うぞという頼もしさができます。 女の子は絵の具でピンク作った・水色作ったと使う色に具体性ができますし。男の子は、色のことはおいといて、かく内容に動きが出てリアルになっていきます。 この時期の女の子の絵は、結構安定感があっけきちんとこしてきますが、男の子の絵はいろいろ動きます。その分、絵に面白さがあります。</p>	<p>個性がはっきりしてきます。 同じ形を繰り返したり、細かくかこうとしたり、絵のその子なりの形や色についてのこだわりが芽生えてきます。 細かいところに絵の具をぬると下がきが消えちゃったりします。失敗しても平気だよと明るくやります。</p>
<p>小学校 2年生 から 小学校 3年生 ぐらい</p>	<p>幼児期から育ってきたその子なりの絵の感覚がある程度完成します。絵の具もずいぶん自由に使うようになってきます。 できあがった絵を見ると、細かくかく持ち味の子や、大きくかく持ち味の子など、その子にとって気持ちいい大きさでのかき方が出てきます。 想像力も豊かですので楽しいし絵のバランスがいい時期です。</p>	<p>それぞれの個性が異なりすから、こういう風がいい絵と押しつけることはやめます。  絵の基礎体力がつくので、どんどんかいてと言います。</p>
<p>小学校 4年生 から 小学校 6年生 ぐらい</p>	<p>何も見ないで想像力だけでかいていたのが、なにか参考にしないとかけないよという感じができます。 その子なりに上手になりたいとか、かいたのが気にいらぬいとか、はずかしいとか芽生えます。 1枚の絵に時間がかかるようになります。絵の内容も立体的にとらえてみたり、急に高度になってきます。</p>	<p>技術面など具体的なアドバイスをしても理解できる年齢です。  時間がかってもいいからすごいのかいてと言います。</p>
<p>中学生ぐらい</p>	<p>勉強面や人間関係、学校へ通うだけでもいろんな軋轢（あつれき）があるんだなと思います。 子供から大人への変化に難しい時期ですそんな中で絵をかくことがどんな役割を果たすか模索される時期です。 忙しい日常の中でペペへ来て、話だけして帰って行くこともあると思いますが、1枚にその子なりのいっぱい時間がいらぬい。 あれやりなさい！これしなさい！ということが多い中、できえるだけゆったりと、絵を楽しんでかいてくれたらなと思う時期です。</p>	<p>年間でかく絵の枚数が極端に少なくなります。  学校では時間内にかきあげなければなりません、ペペでは時間が無尽蔵にあります。  大人の油絵といっしょです。いっぱい話を進めまぬい。</p>

<p>高校生ぐらい</p>	<p>中学生の時期を乗り越え安定しています。それぞれが絵との関わり方を自分でもっています。趣味にするため楽しんでかきたい。美術大学を受験したいので、受験のレベルになりたい。その子なりの推進力をもっています。感性・感覚・技術は十人十色、美大受験や作家活動を通して絵に携わってきた一先輩として、絵に自分の感じることを言います。</p>	<p>鉛筆や木炭を使ったデッサンなど、努力次第で確実に伸びていく年代です。根気と若い集中力がありませんから、絵のメカニズムが自分なりに解りだすとどんだのびます。専門的な絵の基礎が身につきます。</p>
<p>大人の人</p>	<p>絵をかいたことないとか、はずかしいとか、知らないことを段々取り払って、子供がかくように無邪気なものを取り戻してくると皆さん立派な個性と画風をもっています。教える・教えられるではなく、みんなでわがままに勝手ばらばらに絵をかきましょう。その人が人生を生きただけ個性があると思います。絵を見る楽しみ、絵をかく楽しみができるのは人生にとっていいことだと思います。にぎやかにかきましょう。</p>	<p>デッサンなど基本的なことをやってから油絵かきたいという人もいますが、いきなり無邪気に油絵やっちゃたらいいんじゃないかと勧めています。やはり大人になってる分、ひと味違うものができます。何歳になってもやることのできる趣味ですので、まずは、絵の具と遊んでみるのところからスタートしていくのが自然でいいです。</p>

教室をやっていて、感じたことを年齢別に表にまとめてみました。3歳ぐらいのぐるぐるがきはじまって、大人になってくるまでにいくつもの成長過程を通ります。前進することばかりでなく、停滞すること後退することもちろんあります。

この表はあくまでも目安ですが、子供達の成長をたいへん気の長い目で見守ることが大切だと思います。

絵をかくことは、目の前に白い紙があるだけで、5 + 3はいくつ?とか、西暦1600年に起こったことは何?とか、その中にあらかじめ答えが用意してありません。気楽に絵をかこうよと言っていますが、よく考えるとマニュアルなんてないし、何かを表現しようという積極性がある難しいことだと思います。

たちどころに臆することなくすぐにかいてしまう小さい子は、大人にとってはうらやましい存在に見えることもありますし、目の前に並んだ静物をそっくり鉛筆でかいてしまう高校生のおにいさんやおねえさんが、子供にとってすごいかもしれんとも見えることもあります。白い紙にいろんなドラマを繰り広げていってくださいね。

## [絵の道具について]

年 齢	絵 の 道 具	具 体 的 に
幼児から 小学校 3年まで	クレパス 水彩絵の具	どんな小さい子にも水彩絵の具を使わせます。 ぐしゃぐしゃした遊びが 좋습니다。
小学校 4年 から小学校 6年 まで	鉛筆・水彩絵の具 アクリル絵の具	アクリル絵の具は、水彩感覚で油絵の塗り重ねができます。 気が済むまで遊べます。
中学生から 高校生・大人 まで	アクリル絵の具 油絵・パステル 透明水彩など	油絵をかいている人達が多いですが、要望に 応じて、 自分のやりたい画材を選んでやれば いいと思います。
美大受験を 目指す 高校生の人	2 Hから 6 Bの鉛筆 練り消しゴム カルトン・カッター	受験する科（デザイン科・絵画科）と大学によって受 験に必要な画材は変わりますが、まずは、基本のデッ サンからはいります。

子供の場合、道具について、今持っているクレパスや水彩のセットがあれば、あえて新調する必要はないです。それを持ってきてください。クレパスは 12色以上あればいいです。

高見小学校の前の文房具屋さん深見学栄堂に、これぐらいあればいいんじゃないかしらという水彩絵の具と、クレパスのセットやアクリル絵の具のペペ用のセットを用意してもらっています。両方の絵の具の単色販売もしてもらっていますのでご利用ください。

絵の具の場合、新品のうちにはいいですが、だんだん使ううちに赤がなくなった、青がなくなったという感じになってきます。色のチェックだけ家庭でやってあげてください。

絵の具の水入れはペペにもあります。子供達にとっては荷物になりますので、持ってこなくてもできるよう になっています。

受験生の高校生の場合、鉛筆静物デッサンとポスターカラーによる平面構成とか（デザイン科）、木炭石膏 デッサンと人物油絵とか（油絵科）、鉛筆石膏デッサンと透明水彩による静物着色とか（日本画科）、大学 によって様々です。道具についてはその都度相談しましょう。

過去、名古屋芸大（6名）・名古屋造形大（6名）名古屋造形短大（9名）・愛知産業大（4名）大阪芸術大学（2名）・京都芸術短大（1名）・金沢美術工芸大（1名）・愛教大学美術科（1名）岐阜教大美術科（1名）・大垣女子美術短大（3名）にペペから巣立って行きました。（2001年現在）全体の人数は大変少ないですが、受験した人数からすると河合塾よりもはるかに高い合格率ですので、がんばってくださいね。

名 前				電 話	
住 所	〒				
学校名		学 年		生年月日(子供)	